Panasonic®

内蔵セキュリティチップ（TPM）ご利用の手引き

◆印刷のおすすめ

「ご利用の手引き」には、本機に搭載されている内蔵セキュリティチップ（以降、TPM と表記）を使うために必要なインストール方法・設定方法が記載されています。一部セットアップユーティリティの設定やコンピューターの再起動を伴う手順が含まれますので、あらかじめ印刷しておくことをおすすめします。

TPMの概要

従来、ファイルやパスワードの暗号化や、公開鍵方式でのデータのやり取りは、ハードディスクドライブ内に暗号鍵を保存していました。そのため、ハードディスクから暗号鍵・パスワードをコピーされたり、暗号化したファイルと復号化に必要な暗号鍵を盗まれるという危険がありました。

TPM **を使ったファイルの暗号化を行うと、暗号鍵をハードディスクや** CPU **とは分離した** TPM **チップ上に保管するので、より安全性を高めることができます。**

従来のファイル暗号化のしくみ

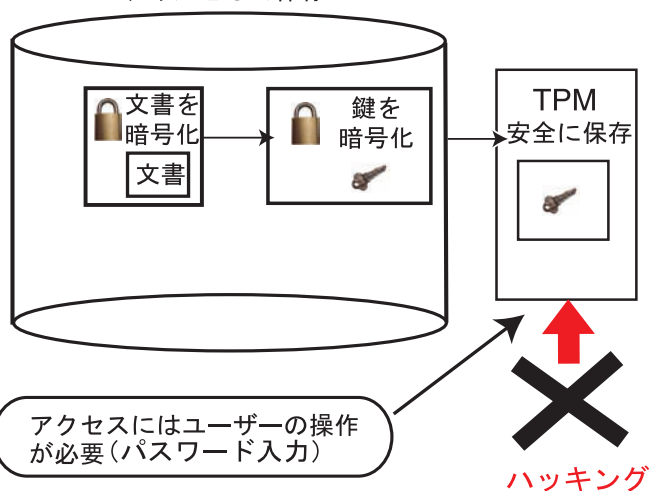
ハードディスクドライブ内に
ファイルとして保存

文書を
暗号化

文書

鍵を
暗号化

暗号化されない鍵が残る

使用上のお願い

セキュリティ機能について

- **すべての状況に対してデータやハードウェアの保護を保証するものではありません。**
- TPM **では複数の暗号鍵（基本ユーザーキー** → 12 ページ**）や証明書を使用するため、これらをなくしたり、忘れてしまった場合、暗号化したデータを復号化することができません。また、**TPM **では複数のパスワードを使用しますが、これらを忘れてしまった場合も同様に暗号化したデータを復号化できません。取り扱いには十分お気を付けください。**
- **お客様が** TPM **の利用により、または利用できなかったことにより発生した損失／損害、および** TPM **の故障などによるデータの損失については、当社は一切責任を負いません。**

Personal Secure Drive（PSD）について

- Infineon Security Platform **ソリューションソフトウェアのヘルプには**Personal Secure Drive**機能についての記述がありますが、本機ではサポートしておりません。**
  本機能を使用すると、正常に動作しないことがありますので絶対に使用しないでください。

バックアップについて

- **以下のファイルは** Security Platform **機能を復元する際に必要です。**TPM **の故障などに備えてリムーバブルディスクなど安全な場所へ定期的にバックアップをとってください。保存場所を内蔵ハードディスクドライブのままにしておくと、**TPM **で暗号鍵を保管している効果が弱くなります。リムーバブルディスク／ネットワークドライブに保存することをおすすめします。**
  詳細は各項目をご覧ください。

  コンピューターの管理者ユーザーが使用するファイル。
  - **復元用アーカイブ ....**Security Platform **の機能を復元するために必要です。（**→ 7 ページ**）**
  - **復元用トークン .... 復元用アーカイブを保護するファイルです。（**→ 7 ページ**）**

  各ユーザーが使用するファイル。
  - **ユーザーバックアップ .... 各ユーザーの基本ユーザーキーが失われた場合などに必要です。（**→ 12 ページ**）**

TPMを使う

TPMを使うまでの流れ

コンピューターの管理者が行う手順

ステップ1

セットアップユーティリティの設定を変更する

- スーパーバイザーパスワード
- 内蔵セキュリティ(TPM)設定

ステップ2

Security Platformをインストールする

ステップ3

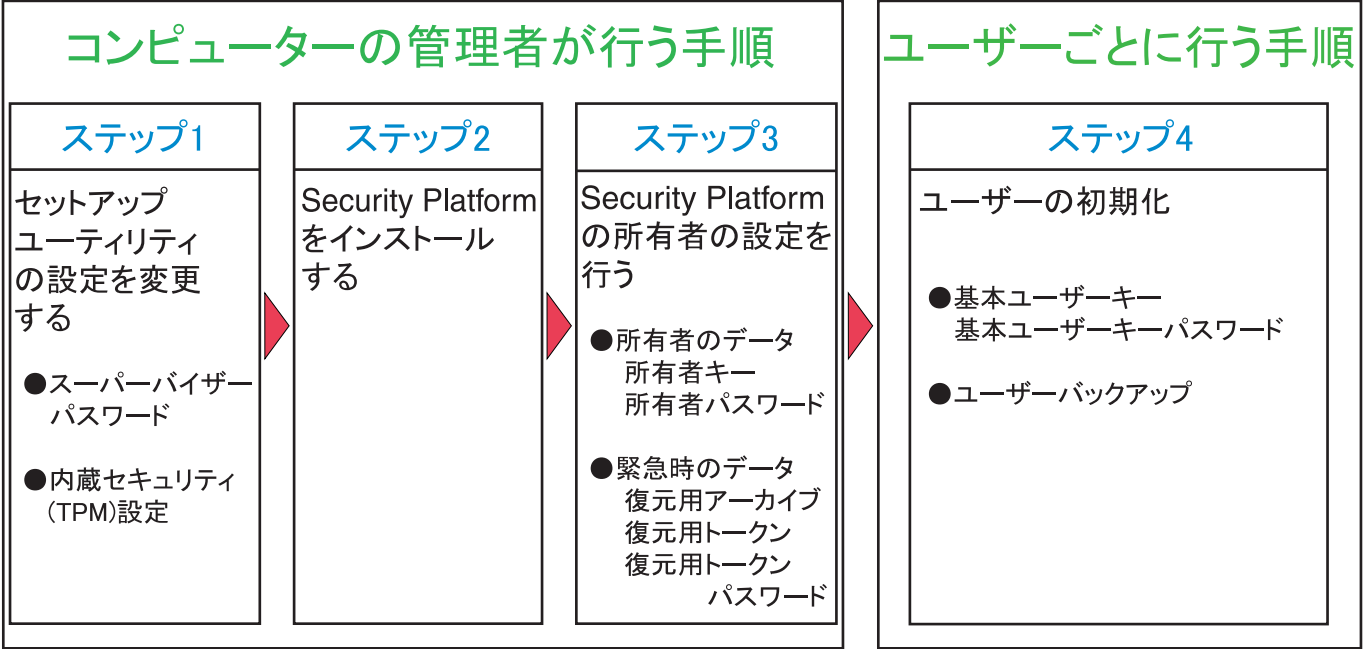
Security Platformの所有者の設定を行う

- 所有者のデータ
  所有者キー
  所有者パスワード
- 緊急時のデータ
  復元用アーカイブ
  復元用トークン
  復元用トークンパスワード

ユーザーごとに行う手順

ステップ4

ユーザーの初期化

- 基本ユーザーキー
  基本ユーザーキーパスワード
- ユーザーバックアップ

ステップ1　セットアップユーティリティの設定を変更する

コンピューターの管理者ユーザーが行います。

1 スーパーバイザーパスワードを設定する。

スーパーバイザーパスワードを設定してください。設定しないと手順 2 を行うことができません。

① コンピューターの電源を入れる。または、Windowsを終了して再起動する。

② コンピューターの起動後すぐ、「Panasonic」起動画面が表示されている間に【F2】を押してセットアップユーティリティを起動する。

③【→】【←】で[セキュリティ]を選ぶ。

④【↑】【↓】で[スーパーバイザーパスワード設定]を選び【Enter】を押す。

⑤ [新しいパスワードを入力してください]の[　　　　　]の中に新しいパスワードを入力し、【Enter】を押す。

- パスワードに使える文字は、半角の英数字で最大 32 文字です。
- 大文字、小文字の区別はありません。
- 数字はキーボード上段の数字キーを使って入力してください。
- 【Shift】や【Ctrl】などのキーと組み合わせて入力することはできません。

⑥ [新しいパスワードを確認してください]の[　　　　　]の中に手順⑤で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】を押す。

- 入力したパスワードは画面には表示されません。

⑦「セットアップ通知」画面で【Enter】を押す。

2 [内蔵セキュリティ（TPM）設定]を有効にする。

① スーパーバイザーパスワードを設定した後、[内蔵セキュリティ（TPM）設定]を選ぶ。

② [内蔵セキュリティ（TPM）設定]を[有効]に設定する。

③「セットアップ確認」画面で内容を読んで【Enter】を押す。

④【Esc】を押して内蔵セキュリティ（TPM）設定のサブメニューを閉じる。

⑤【F10】を押し、[はい]を選んで【Enter】を押す。
セットアップユーティリティが終了します。

ステップ2　Security Platformをインストールする

コンピューターの管理者ユーザーが行います。

1 **コンピューターの管理者の権限でWindowsにログオンする。**

2 **実行中のすべてのプログラムを終了する。**

3 **[スタート] - [ファイル名を指定して実行]をクリックして、「c:\util\drivers\tpm\tpmsetup.exe」と入力して[OK]をクリックする。**

4 **「TPM Setup」画面で[次へ]をクリックする。**

5 **ライセンス契約の内容を確認し、承諾のうえ[承諾する]をクリックして[次へ]をクリックする。**
インストールを開始します。

6 **「インストールが完了しました」というメッセージが表示されたら、[完了]をクリックする。**
コンピューターが自動的に再起動します。再起動後、タスクトレイに「Security Platform インジケーターアイコン」が表示されます。

ステップ3　Security Platformの所有者の設定を行う

Security Platformの所有者はコンピューターを管理するユーザーです。
Security Platformの“所有者”は、「コンピューターの管理者」の権限を持ったWindowsのユーザーアカウント（Administratorなど）でなければなりません。

ここでは、所有者が管理するパスワードやファイルを設定します。

お願い

- パスワードやファイルをひとつでも忘れたり、削除したりすると、Security Platformの管理や復元ができなくなりますので、十分に気を付けてください。

◆所有者が管理するパスワードやファイル

● 所有者のデータ

<u>所有者キーおよび所有者パスワード</u>
所有者であることを証明するキーとそれを利用するためのパスワードです。はじめにこの 2 つのデータを作成します。キーは初期化ウィザードを行うとセキュリティチップ内部に自動的に作成され、所有者パスワードを入力して利用します。このパスワードを忘れると、Security Platform の管理機能が使えなくなりますので気を付けください。

● 緊急時のデータ

<u>復元用アーカイブ</u>
セキュリティチップで障害が発生したとき、Security Platform の機能を復元するために最低限必要な情報が保存されているファイルです。所有者のデータを作成した後、Security Platform 初期化ウィザードの実行中に作成されます。

- 復元用アーカイブの保存先フォルダー（デフォルト設定の場合）
  C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Infineon\TPM Software\RecoveryArchive\
  （上記フォルダーは隠しフォルダーに設定されているため、エクスプローラーで参照するには表示設定を変更する必要があります。エクスプローラーで [ツール] - [フォルダオプション] - [表示] をクリックし、[すべてのファイルとフォルダを表示する] を選んで [OK] をクリックしてください。）
- 復元用アーカイブのファイル名（デフォルト設定の場合）
  SPEmRecArchive.xml

お願い

- 復元用アーカイブはユーザー情報に変更があるとデータが更新されます。必ず定期的にリムーバブルディスクなど、本体とは別な安全なところに手動でバックアップをとってください。

<u>復元用トークン</u>
復元用アーカイブを不正アクセスから保護するファイルで、Security Platform を復元するときに必要になります。削除すると復元できなくなりますので、内蔵ハードディスクには保存せず、復元用アーカイブとは別にリムーバブルディスクなどに保存し、管理してください。復元用アーカイブと同一の場所に保存することはおすすめしません。
復元用トークンを使用するには、復元用トークンパスワードが必要です。

Security Platform 初期化ウィザードの実行中に作成されます。

- 復元用トークンの保存先フォルダー（デフォルト設定の場合）
  C:\Documents and Settings\（ユーザーアカウント名）\My Documents\
- 復元用トークンのファイル名（デフォルト設定の場合）
  SPEmRecToken.xml
  復元用アーカイブとは別に、リムーバブルディスクなどに保存してください。復元用アーカイブと同一の場所に保存することはおすすめしません。

復元用トークンパスワード
復元用トークンを使用する際に必要になるパスワードです（所有者パスワードとは別）。このパスワードを忘れると、Security Platform の復元ができなくなりますので十分にお気を付けください。

1 コンピューターの管理者ユーザーの権限でログオンする。
「Administrator」のアカウントではなく、管理者権限のユーザーアカウントを作成してから行ってください。

2 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform初期化ウィザード]をクリックする。

3 [既存のSecurity Platformを復元する]にチェックマークが付いていないことを確認して[次へ]をクリックする。

チェックマークが付いている場合は外してください。

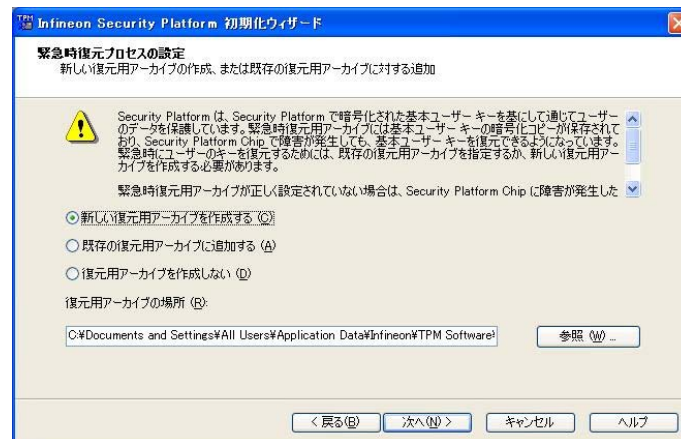
4 所有者のパスワードを設定する。

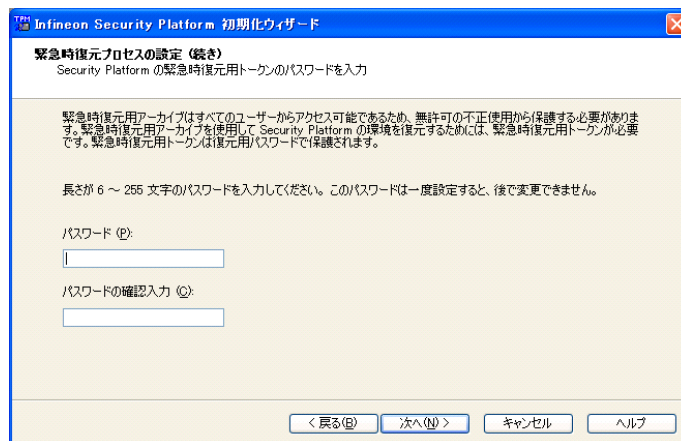
[パスワード]と[パスワードの確認入力]に入力して、[次へ]をクリックします。

●長さが 6 ～ 255 文字のパスワードを入力してください。

5 復元用アーカイブを作成する。

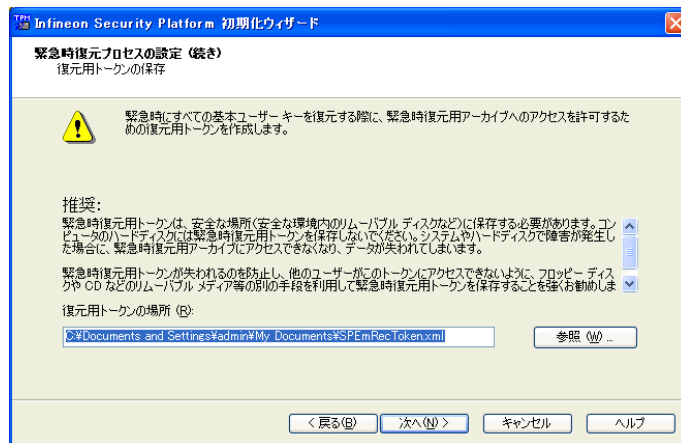
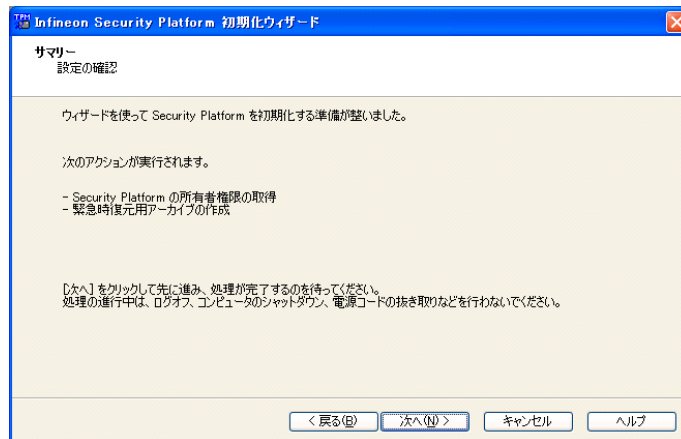
[新しい復元用アーカイブを作成する]をクリックし、アーカイブの保存場所を確認して、[次へ]をクリックする。
復元用アーカイブはユーザーの登録時・変更時にデータが更新されるため、作成場所は変更しないことをおすすめします。変更する場合は、必ず、すべてのユーザーがアクセスできるフォルダーを指定してください。

デフォルト設定のフォルダーおよびファイル名は、「所有者が管理するパスワードやファイル」の「復元用アーカイブ」をご覧ください。(➔ 7 ページ)

6 復元用トークンパスワードを設定する。

[パスワード]と[パスワードの確認入力]に入力し[次へ]をクリックします。

お願い

- **パスワードは忘れないようにしてください。忘れるとSecurity Platformの機能を復元できなくなります。**

7 復元用トークンを作成する。

保存場所をリムーバブルディスクなどに指定して、[次へ]をクリックしてください。
デフォルト設定のフォルダーおよびファイル名は、「所有者が管理するパスワードやファイル」の「復元用トークン」をご覧ください。(→ 7ページ)
内蔵ハードディスクには保存せず、復元用アーカイブファイルとは別にリムーバブルディスクなどに保存して、本体とは別の安全な場所で厳重に管理してください。

8 **「サマリー」画面で[次へ]をクリックする。**
処理に少し時間がかかります。

9 **「ウィザードが正常に終了しました」が表示されたら次の操作を行う。**

- **引き続き TPM を利用するユーザーの設定を行う場合：**
  [Security Platform **ユーザー初期化ウィザードを起動する**] **をクリックしてチェックマークを付け、**[**完了**] **をクリックする。その後、「ステップ** 4 **ユーザーの初期化」を行ってください。**
- **ユーザーの設定を行わない場合：**
  そのまま [**完了**] **をクリックする。**

ステップ4　ユーザーの初期化

Security Platformの利用者を、ユーザーと呼びます。ユーザーは、「コンピューターの管理者ユーザー」/「制限付きユーザー」のいずれのユーザーアカウントでもかまいません。複数のユーザーで使用する場合は、ユーザーごとに次の操作を行ってください。

◆各ユーザーの設定を行う

TPM を利用する各ユーザーでログオンして、各ユーザーごとに設定を行います。
ここでは、各ユーザーが管理するパスワードやバックアップのなかで、基本ユーザーキー、基本ユーザーキーパスワード、ユーザー証明書を設定します。

◆各ユーザーが管理するパスワードやバックアップ

- **基本ユーザーキーと基本ユーザーキーパスワード**
  基本ユーザーキーは、TPM を使ってデータを暗号化するときや暗号化されたデータにアクセスするときに必要な鍵で、ハードディスク上に作成されます。基本ユーザーキーを使うには、基本ユーザーキーパスワードが必要です。パスワードを忘れないようにしてください。
- **ユーザーバックアップ**
  ハードディスク上の基本ユーザーキーを削除してしまった場合など、データを復元するためのバックアップです。このステップ 4 で設定したユーザーキーとユーザー証明書のバックアップが保存されます。
  ユーザーバックアップは各ユーザーごとに行ってください。
  バックアップの作成方法は「ユーザーキーおよび証明書のバックアップを作成するとき」(➔　21 ページ)をご覧ください。

TPMを使う

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Infineon Security Platformユーザー初期化ウィザード]をクリックする。

「ステップ3　Security Platformの所有者の設定を行う」の手順 9 から続けて行う場合、この手順は不要です。

2 [次へ]をクリックする。

3 基本ユーザーキーパスワードを設定する。

[パスワード]と[パスワードの確認入力]に基本ユーザーキーのパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。

この基本ユーザーキーパスワードを使って、暗号化したファイルにアクセスします。

Infineon Security Platform ユーザー初期化ウィザード

基本ユーザー キーのパスワード
基本ユーザー キーのパスワードを設定します。

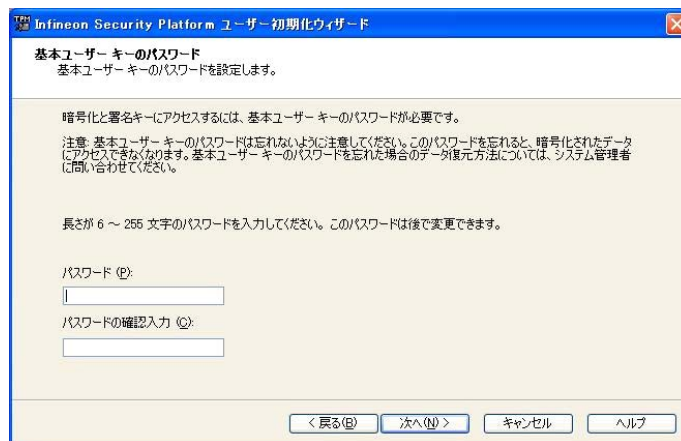
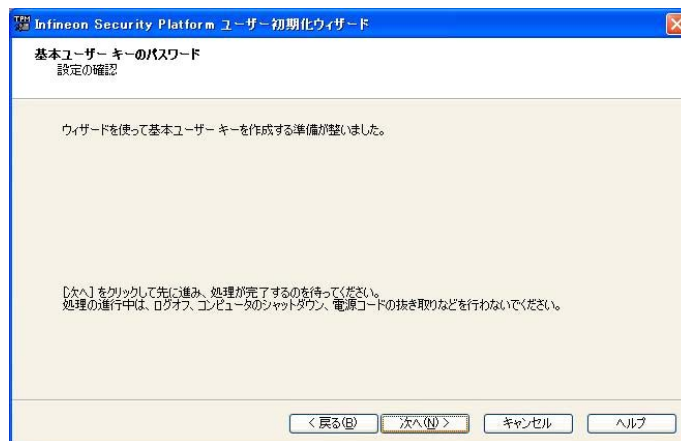
暗号化と署名キーにアクセスするには、基本ユーザー キーのパスワードが必要です。

注意: 基本ユーザー キーのパスワードは忘れないように注意してください。このパスワードを忘れると、暗号化されたデータにアクセスできなくなります。基本ユーザー キーのパスワードを忘れた場合のデータ復元方法については、システム管理者に問い合わせてください。

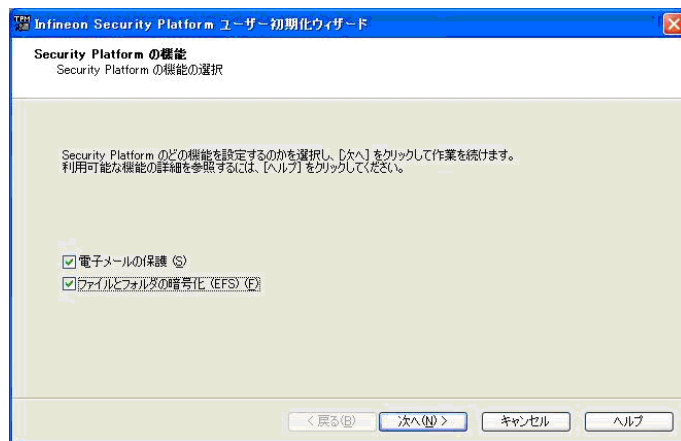
長さが 6 ～ 255 文字のパスワードを入力してください。このパスワードは後で変更できます。

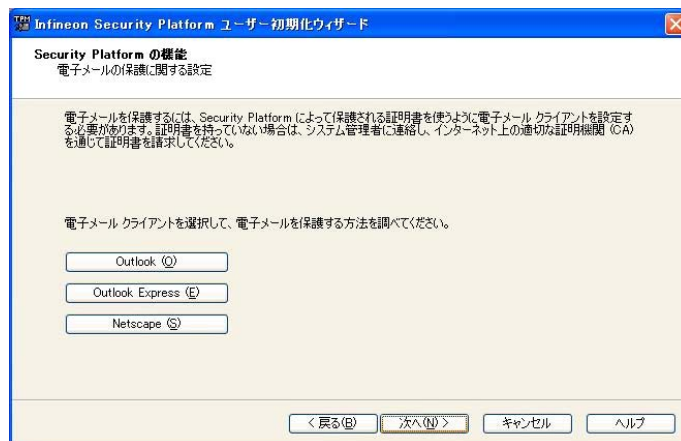
パスワード (P):

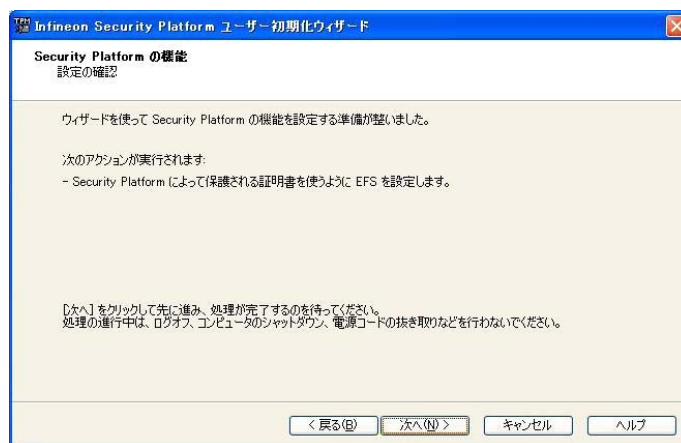
パスワードの確認入力 (C):

< 戻る(B)　次へ(N) >　キャンセル　ヘルプ

4 **[次へ]をクリックする。**

5 **[電子メールの保護]と[ファイルとフォルダの暗号化（EFS）]にチェックマークが付いていることを確認し、[次へ]をクリックする。**

[Personal Secure Drive（PSD）]**という項目が表示されている場合は、必ずチェックマークを外してください。**
（本機ではサポートしていません。）

6 **お使いの電子メールソフトをクリックし、電子メールの保護の設定についてのヘルプを読んで、[次へ]をクリックする。**

ヘルプが表示されます。
ウィザード終了後、必要に応じて電子メールの設定を行ってください。

7 **自分のユーザー名が入った証明書（ユーザー証明書）をクリックし、[次へ]をクリックする。**

8 **画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。**

9 **「ウィザードが正常に終了しました」と表示されたら[完了]をクリックする。**

10 **再起動を促すメッセージが表示された場合は、[はい]をクリックして再起動する。**

ファイルおよびフォルダーを暗号化する

TPM の主な機能として、ファイルおよびフォルダーの暗号化について説明します。詳しい内容およびその他の機能については、Security Platform のヘルプをご覧ください。
Security Platform のヘルプ内に Personal Secure Drive（PSD）機能についての説明がありますが、本機ではサポートしていませんので使用しないでください。

暗号化するときのお願い

- 次のファイルは暗号化しないでください。暗号化すると Security Platform の復元ができなくなります。
  - 復元用トークン（SpEmRecToken.xml）
  - 復元用アーカイブ（SpEmRecArchive.xml）
  - ユーザーバックアップ（SpBackupArchive.xml）

  デフォルトではこれらのファイルは C:\Documents and Settings の下に作成されていますので、C:\Documents and Settings は暗号化しないでください。
- C:\Program\Files の下には多くのアプリケーションソフトが保存されます。これらのファイルは暗号化しないでください。暗号化すると他ユーザーがアクセスできなくなります。またアプリケーションソフトが起動しないなど、正常に動作しなくなる場合があります。
  その他のファイル（例えば C:\ など）についてもむやみに暗号化すると、アプリケーションソフトが起動しないなどの問題が発生する恐れがあります。お気を付けください。
- 使い方やファイルの暗号化については、次ページおよび Security Platform のヘルプをご覧ください。

ファイルおよびフォルダーを暗号化する

暗号化できるのは NTFS ボリュームのファイルまたはフォルダーのみです。

- **TPM を利用して暗号化する際は、新しく暗号化専用のフォルダーを作成し、暗号化したいファイルをフォルダー内に作成または保存することをおすすめします。**

◆（例）[マイドキュメント]フォルダーに暗号化専用のフォルダーを作成する場合

1 **[スタート] - [マイドキュメント]をクリックする。**

2 **「マイドキュメント」の画面上で右クリックし、[新規作成] - [フォルダ]をクリックする。**
必要に応じてフォルダーに名前を付けます。

3 **作成したフォルダーを右クリックし、[暗号化]をクリックする。**
「属性変更の確認」画面で、フォルダーのみを暗号化するかサブフォルダーやファイルも暗号化するかを選び、[OK]をクリックします。
暗号化されたファイルを開くときに「Infineon Security Platform認証サービス」画面が表示された場合は、30秒以内に基本ユーザーキーのパスワードを入力して[OK]をクリックしてください。

暗号化されているか確認する

エクスプローラーでは暗号化するとファイル名やフォルダー名が緑色で表示されます。また、次の方法でも確認できます。

1 ファイルまたはフォルダーを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2 [全般]の[詳細設定]をクリックする。
「属性の詳細」画面が表示されます。

3 [内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する]にチェックマークが付いていることを確認する。
チェックマークが付いていれば暗号化されています。

ファイルおよびフォルダーの暗号化を解除する

1 暗号化を解除したいファイルまたはフォルダーを右クリックする。

2 メニューから[暗号化解除]をクリックする。

Security Platformの設定を変更する

所有者パスワード／基本ユーザーキーパスワードを変更するとき

所有者パスワードを変更する場合は、コンピューターの管理者ユーザーの権限でログオンしてください。

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform設定ツール]をクリックする。

2 ●所有者パスワードを変更する場合
[アドバンス]をクリックし、[所有者のパスワード]の[変更]をクリックしてパスワードを変更所有する。
[アドバンス]は、コンピューターの管理者ユーザーで設定ツールを起動した場合のみ表示されます。
●基本ユーザーキーパスワードを変更する場合
[ユーザー設定]をクリックし、[基本ユーザーキーのパスワード]の変更をクリックしてパスワードを変更する。

3 [所有者のパスワード]の[変更]をクリックして、パスワードを変更する。

新たにユーザーアカウントを作成し、TPMを利用するとき

1 新たに作成したユーザーアカウントでWindowsにログオンする。

タスクトレイの「Security Platformインジケータアイコン」から「Security Platformの機能が初期化されていません」という吹き出しが表示されます。

2 「ステップ4　ユーザーの初期化」の手順を行う（➔　12ページ）。

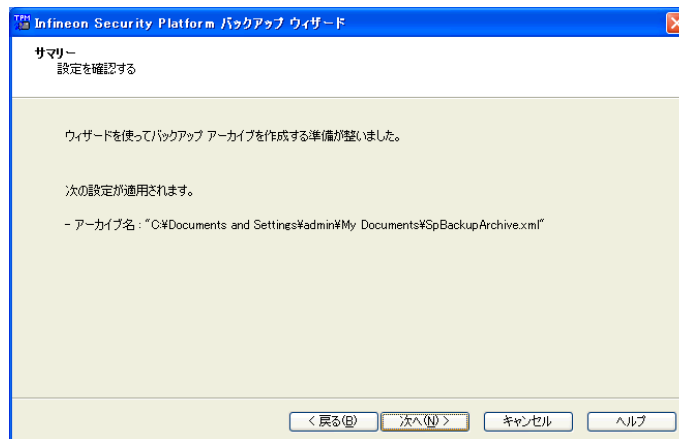
ユーザーキーおよび証明書のバックアップを作成するとき

ユーザーキーおよびユーザー証明書のバックアップファイルを作成しておくと、ハードディスクドライブが故障したり、Security Platform 関連の証明書データが消去された場合などに、バックアップファイルからデータを復元することができます。
復元方法については、「復元する」の「Windows の再インストールを行ったとき（ハードディスクドライブの交換も含む）」の「ステップ 3　ユーザーバックアップを復元する」をご覧ください。（**➔　29 ページ****）**

1 **[スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform設定ツール]をクリックする。**

2 **[バックアップ]をクリックし、「Security Platformのバックアップ」の[バックアップ]をクリックして、バックアップウィザードを起動する。**

3 **バックアップデータの保存先を指定し、[次へ]をクリックする。**
Security Platformの所有者の場合は、復元用アーカイブをバックアップデータに追加できます。
復元用アーカイブについては、「所有者が管理するパスワードやファイル」の「復元用アーカイブ」をご覧ください。（**➔　7ページ****）**

4 画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。

5 「ウィザードが正常に終了しました」が表示されたら[完了]をクリックする。

復元する

Windowsの再インストールを行ったとき（ハードディスクドライブの交換も含む）

Windows を再インストールする前に使用していた TPM の環境を復元する方法を説明します。

- 次のような場合は、TPM の環境を復元する必要があります。
  - 以前の TPM 環境で暗号化したファイルを復号化する必要がある場合
  - 電子メールの保護を利用している場合
  - VPN などネットワーク認証に TPM を利用している場合
  - その他、電子証明書をお使いの場合　など
- 暗号化ファイルを元に戻す必要がないときなど、すべてのユーザーが以前の TPM 環境を使用しない場合は、復元する必要がありません。以下の手順に従って、新たに TPM をセットアップし直してください。

① セットアップユーティリティを起動する。

1. コンピューターの電源を入れる。または、Windowsを終了して再起動する。
2. コンピューターの起動後すぐ、「Panasonic」起動画面が表示されている間に【F2】を押してセットアップユーティリティを起動する。
3. スーパーバイザーパスワードを入力して【Enter】を押す。

② 所有者情報の初期化を行う。

1. 【➔】【←】で[セキュリティ]を選ぶ。
2. [内蔵セキュリティ（TPM）設定]を選ぶ。
3. [所有者情報の初期化]を選び、【Enter】を押す。
4. 「セットアップ確認」画面で内容を読んで[実行]を選ぶ。
5. 再度[実行]を選ぶ。
   自動的に再起動します。

③ 再起動後、「TPMを使う」の「ステップ2　Security Platformをインストールする」（➔　6ページ）の手順を行ってセットアップする。
復元用トークン・復元用アーカイブ・ユーザーバックアップは新たに作成します。これまで保存していたファイルは消去してください。

◆復元するときの流れ

ユーザーごとに行う手順

ステップ2

●ユーザーバックアップを更新する
●ユーザーバックアップを復元する

必要なもの
・基本ユーザーキーパスワード
・基本ユーザーキーと証明書のバックアップファイル

ステップ1　Security Platformを復元する

コンピューターの管理者が行います。

◆必要なもの

- **復元用アーカイブ**（➔ 7 ページ）
- **所有者パスワード**（➔ 7 ページ）

◆復元する

1 Security Platformをインストールする。(➔ 6ページ)

2 ①エクスプローラーを開き、[ツール] - [フォルダオプション] - [表示]をクリックする。

②[詳細設定]の[簡易ファイルの共有を使用する]のチェックマークを外し、「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択して[OK]をクリックする。

3 バックアップしておいた復元用アーカイブ（SPEmRecArchive.xml）をすべてのユーザーがアクセスできるフォルダーに作成する。
例：デフォルト設定と同じフォルダーにコピーする場合：
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Infineon\TPM Software\RecoveryArchiveに作成します。

4 作成した復元用アーカイブ（SPEmRecArchive.xml）を右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

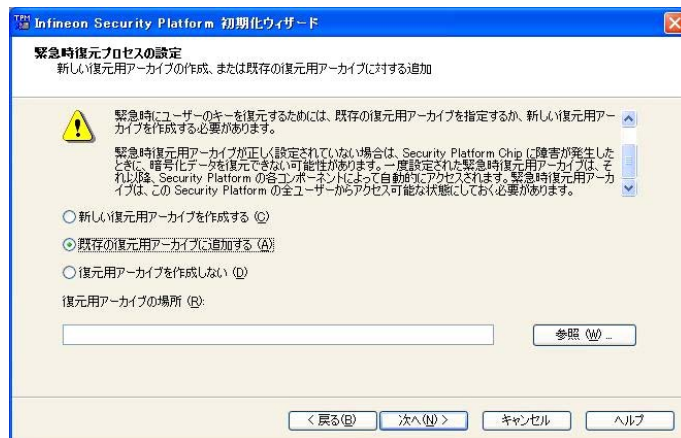
5 [セキュリティ]をクリックし、[グループ名またはユーザー名]に存在するUsersグループについて[書き込み]のアクセス許可を[許可]にする。

6 [OK]をクリックする。

7 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform初期化ウィザード]をクリックする。

8 **[既存のSecurity Platformを復元する]のチェックマークが付いていないことを確認し、[次へ]をクリックする。**

9 **所有者のパスワードを入力し、[次へ]をクリックする。**

10 [既存の復元用アーカイブに追加する] をクリックし、[参照]をクリックする。
25 ページの手順 *1* でコピーした復元用アーカイブの場所を指定して、[次へ]をクリックする。

11 「サマリー」画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。

12 「ウィザードが正常に終了しました」が表示されたら、[Security Platformユーザー初期化ウィザードを起動する]にチェックマークが付いていないことを確認し、[完了]をクリックする。

ステップ2　ユーザーバックアップを更新する

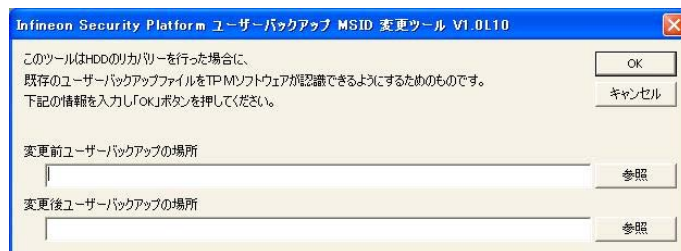
TPM を利用する各ユーザーが行います。

◆必要なもの

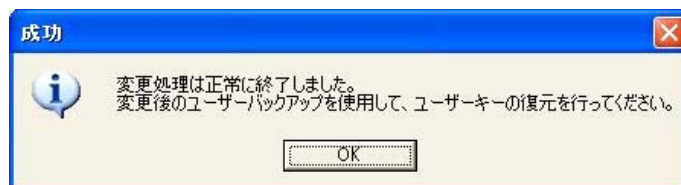
- 基本ユーザーキーパスワード
- 基本ユーザーキーと証明書のバックアップファイル

◆更新する

Windows の再インストールを行った場合、リムーバブルディスクなどに保存しておいたユーザーバックアップを再インストール後のコンピューターで使えるように変換する必要があります。

1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックし、[c:\util\drivers\tpm\chgmsid.exe]と入力して[OK]をクリックする。

2 リムーバブルディスクなどに保存してあるバックアップファイルを指定する。

3 変換した新しいバックアップファイルの保存先を指定し、[OK]をクリックする（手順2と同じファイルは指定できません）。

4 「変更処理は正常に終了しました」画面で[OK]をクリックする。

ステップ3　ユーザーバックアップを復元する

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platformバックアップウィザード]をクリックする。

2 [次へ]をクリックする

3 [キーと証明書の復元]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。

4 基本ユーザーキーと証明書のバックアップファイルを指定し、[次へ]をクリックする。

5 バックアップされている基本ユーザー名と現在の基本ユーザー名が異なる場合は、[バックアップユーザー名]に表示されているユーザー名が現在ログオンしているユーザー名であることを確認し、[次へ]をクリックする。

6 画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。

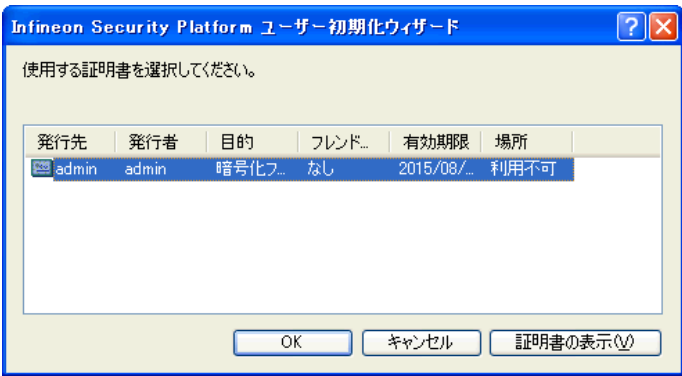
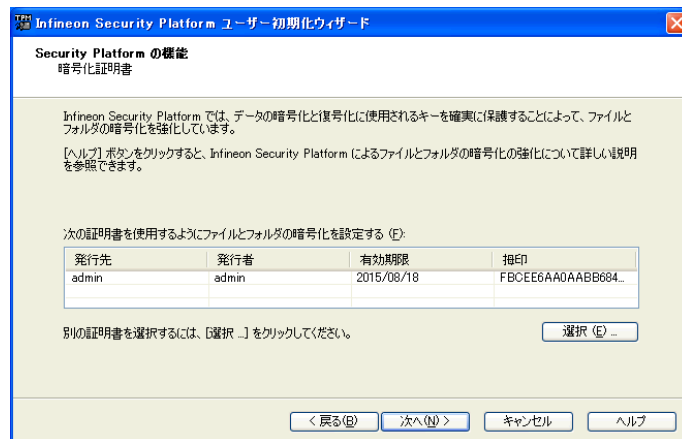
7 [Security Platform**ユーザー初期化ウィザードを起動する**]**にチェックが付いていることを確認し、**[**完了**]**をクリックする。**

8 [**ファイルとフォルダの暗号化**（EFS）]**にチェックマークを付け、**[**次へ**]**をクリックする。**

お願い

- Personal Secure Drive（PSD）**という選択項目が表示された場合は、絶対にチェックマークを付けないでください（本機ではサポートしていません）。**

9 [選択]をクリックする。

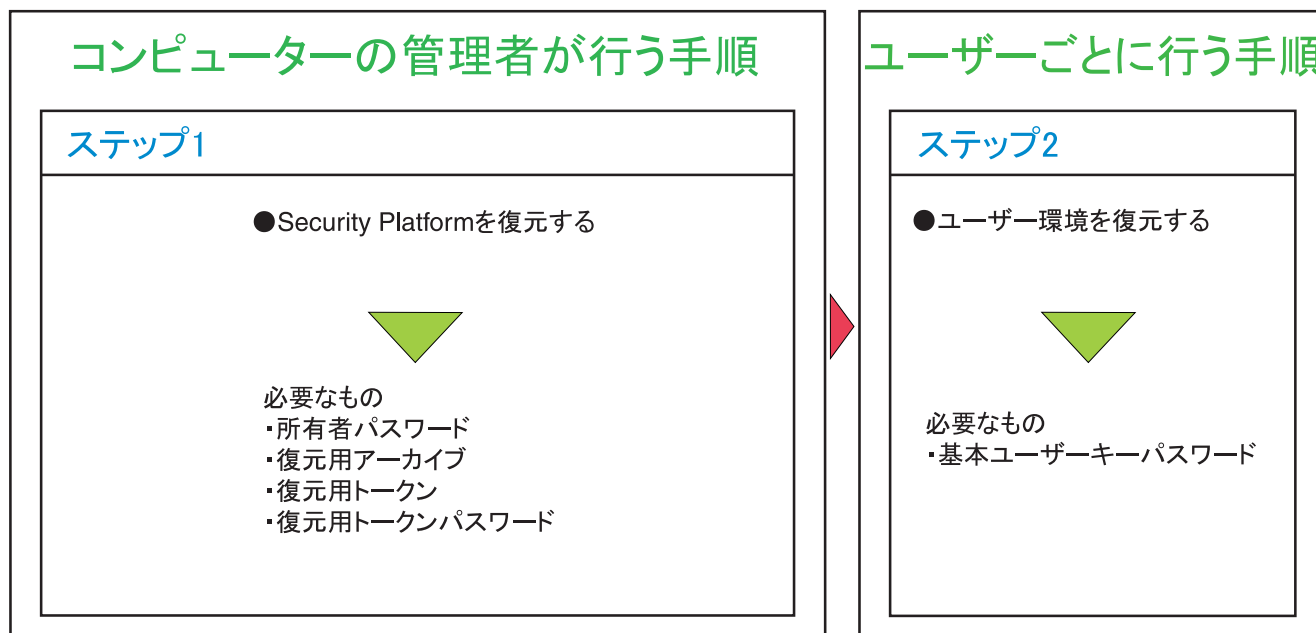
10 一覧から暗号化に使うユーザー証明書を選び、[OK]をクリックする。

11 証明書が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。

12 画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。

13 「ウィザードが正常に終了しました」が表示されたら[完了]をクリックする。

内蔵のTPMを交換したとき

次のような場合、Security Platform の機能を復元する必要があります。復元しないと、交換前の TPM で作成した各キーおよび証明書を使用することはできません。

- **修理などでマザーボードが交換されていた場合**
- **セットアップユーティリティで所有者情報の初期化を行った場合**
- **コンピューターを起動した後、Security Platform のアイコンが に変わり、「初期化されていません」の吹き出しが表示される場合**
- **「Infineon Security Platform 設定ツール」画面の [全般] に初期化未了の文字が表示されている場合**

◆復元するときの流れ

◆復元プロセスには、2つの段階があります。

- **最初の段階では、Security Platform の所有者が Security Platform の初期設定、復元用アーカイブの内容の復元などを行います。**

- 次の段階では、Security Platform を利用する各ユーザーが、自分の基本ユーザーキーパスワードを使って暗号化された既存のデータに再度アクセスできるようにします。

ステップ1　Security Platformを復元する

Security Platform を管理するコンピューターの管理者ユーザーが行います。

◆必要なもの

Security Platform を復元するために必要な復元用アーカイブ、復元用トークンおよび復元用トークンパスワードの保存場所については、「所有者が管理するパスワードやファイル」をご覧ください。（→ 7 ページ）

◆復元する

1 セットアップユーティリティでスーパーバイザーパスワードを設定後、[内蔵セキュリティチップ（TPM）設定]が[有効]であることを確認する。（→ 5ページ）

2 セットアップユーティリティを終了してWindowsを起動する。

Windowsにログオンするとタスクトレイのアイコンから「Security Platformが初期化されていません」という吹き出しが表示されます。
（事前にSecurity Platformがインストールされている必要があります。）

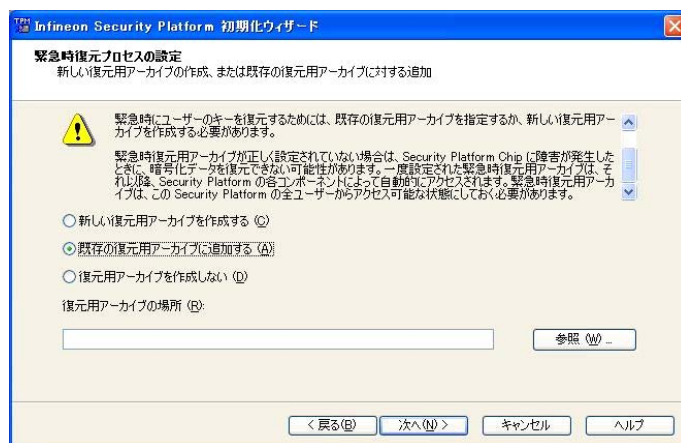
3 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform初期化ウィザード]をクリックし、Security Platform初期化ウィザードを起動する。

4 **[既存のSecurity Platformを復元する]をクリックしてチェックマークを付け、[次へ]をクリックする。**

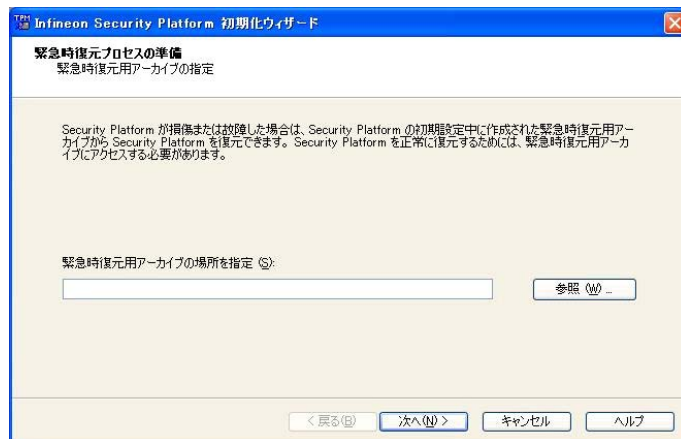
5 **所有者パスワードを入力する。**

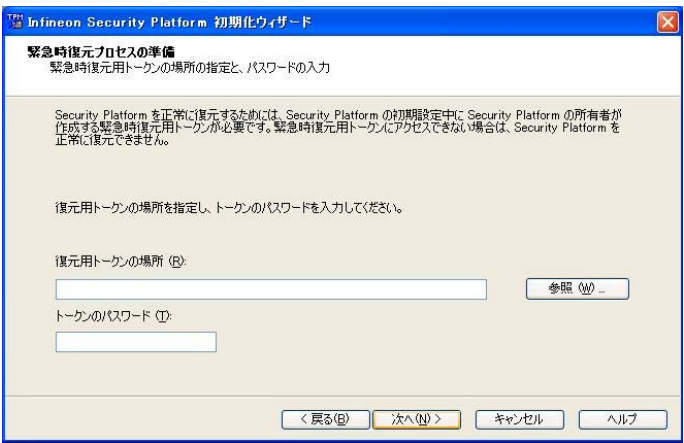
[パスワード] と [パスワードの確認入力] に入力して、[次へ] をクリックします。

6 **[既存の復元用アーカイブに追加する]をクリックし、[参照]をクリックして、復元用アーカイブの場所を指定して、[次へ]をクリックする。**

デフォルト設定の復元用アーカイブ保存場所は、「所有者が管理するパスワードやファイル」の「復元用アーカイブ」をご覧ください。(➔ 7 ページ)

7 **画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。**

8 **[参照]をクリックした後、復元用アーカイブの場所を再度指定し、[次へ]をクリックする。**

デフォルト設定の復元用アーカイブ保存場所は、「所有者が管理するパスワードやファイル」の「復元用アーカイブ」をご覧ください。(➔ 7 ページ)

復元する

9 **復元用トークンの場所を指定し、トークン用パスワードを入力して、[次へ]をクリックする。**

10 **復元するコンピューター名をクリックし、[次へ]をクリックする。**

11 **画面の内容を確認し、[次へ]をクリックする。**

12 「ウィザードが正常に終了しました」が表示されたら[完了]をクリックする。

ステップ2　ユーザー環境を復元する

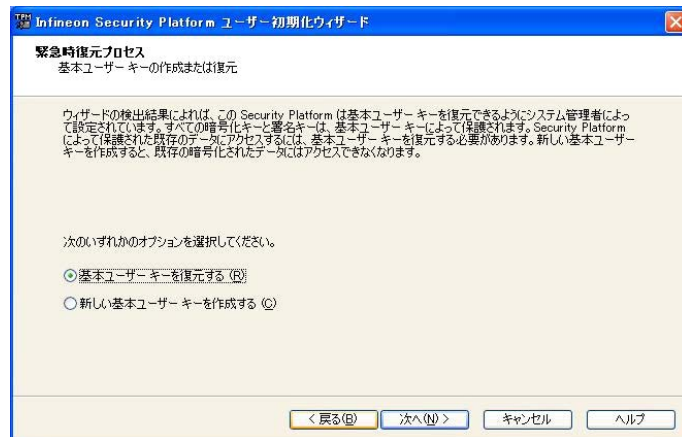
各ユーザーが行います。

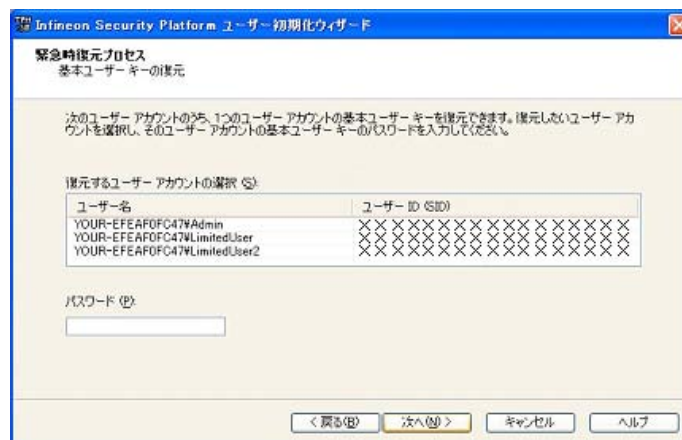
- 暗号化された既存のデータに再度アクセスできるようにします。新しい基本ユーザーキーを作成することもできますが、その場合は暗号化されたデータにはアクセスできなくなります。

◆復元する

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platformユーザー初期化ウィザード]をクリックする。

2 [次へ]をクリックする。

3 [基本ユーザーキーを復元する]をクリックし、[次へ]をクリックする。

復元する

4 **「復元するユーザーアカウントの選択」で自分のユーザー名を選び、基本ユーザーキーパスワードを入力して[次へ]をクリックする。**

5 **「TPMを使う」の「ステップ4　ユーザーの初期化」の手順 4 以降を行う。**(→ 12ページ)

TPMを交換した後、Windowsの再インストールを行ったとき

Windows を再インストールする前に使用していた TPM の環境を復元する方法説明します。

- 次のような場合は、TPM の環境を復元する必要があります。
  - 以前の TPM 環境で暗号化したファイルを復号化する必要がある場合
  - 電子メールの保護を利用している場合
  - VPN などネットワーク認証に TPM を利用している場合
  - その他、電子証明書をお使いの場合　など
- 暗号化ファイルを元に戻す必要がないときなど、すべてのユーザーが以前の TPM 環境を使用する必要がない場合は、復元する必要がありません。「TPM を使う」の「ステップ 1　セットアップユーティリティの設定を変更する」(→　5 ページ) の手順に従ってセットアップを行ってください。
  復元用トークン・復元用アーカイブ・ユーザーバックアップは新たに作成します（これまで保存していたファイルは破棄してください)。

◆復元するときの流れ

ユーザーごとに行う手順

ステップ2

●ユーザー環境を復元する

必要なもの
・基本ユーザーキーパスワード

ステップ1　Security Platformを復元する

コンピューターの管理者ユーザーが行います。

1 「Windowsの再インストールを行ったとき」の「ステップ1　Security Platformを復元する」の手順 *1* ～ *6* を行う。(➔　24ページ)

2 「内蔵のTPMを交換したとき」の「ステップ1　Security Platformを復元する」を行う。(➔　35ページ)

ステップ2　ユーザー環境を復元する

各ユーザーが行います。

1 「Windowsの再インストールを行ったとき」の「ステップ2　ユーザーバックアップを更新する」を行う。(➔　28ページ)

2 「Windowsの再インストールを行ったとき」の「ステップ3　ユーザーバックアップを復元する」の手順 *1* ～ *7* を行う。(➔　29ページ)

3 「TPMを交換したとき」の「ステップ2　ユーザー環境を復元する」を行う（➔　39ページ）

緊急時のデータを作成する／設定を変更する

次のような場合、復元用アーカイブと復元用トークンを作成することができます。
- 初期化ウィザードで「復元用アーカイブを作成しない」を選択した後に復元用アーカイブが必要になった場合
- トークンパスワードを忘れてしまった場合
- 復元用トークンをなくしてしまった場合

ステップ1　復元用アーカイブと復元用トークンを作成する

コンピューターの管理者ユーザーが行います。

1 [スタート] - [ファイル名を指定して実行]をクリックし、[C:\util\drivers\tpm\mkarc.exe]と入力して[OK]をクリックする。

2 現在の所有者パスワードを入力する。

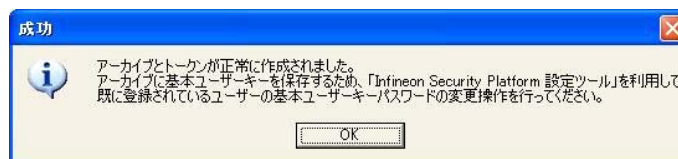
3 作成する復元用アーカイブの場所を指定する。

4 作成するトークンのパスワードを（確認も含め）2か所入力する。

5 作成するトークンの場所を指定し、[OK]をクリックする。

お願い

- 復元用トークンはSecurity Platformを復元するときに必要となります。失うと復元できなくなりますのでコンピューター内部のハードディスクなどには保存せず、復元用アーカイブとは別にリムーバブルディスクなどに保存し、厳重に管理してください。復元用アーカイブと同一の場所に保存することはおすすめしません。

6 「アーカイブとトークンが正常に作成されました」と表示されたら[OK]をクリックする。

ステップ2　基本ユーザーキーパスワードを変更する

各ユーザーが行います。

1 [スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platformツール] - [Security Platform設定ツール]をクリックする。

2 「所有者パスワード／基本ユーザーキーパスワードを変更するとき」の手順に従い、基本ユーザーキーパスワードを変更する。(➔　20ページ)

パスワードを変更したくない場合は、古いパスワードと新しいパスワードに同じ文字列を入力してください。パスワードを変更すると、復元用アーカイブに新しい基本ユーザーキーパスワードが登録されます。

コンピューターを廃棄・譲渡するとき

コンピューター本体を廃棄・譲渡するときは、TPM により保護されたデータを復元、または利用できないようにするために所有者情報を初期化してください。

1 セットアップユーティリティの[セキュリティ] - [内蔵セキュリティ（TPM）設定] - [所有者情報の初期化]を選び【Enter】を押す。

スーパーバイザーパスワードが設定されていないと、[内蔵セキュリティ（TPM）設定]のサブメニューに入ることができません。（➔ 5ページ）

2 セットアップ確認の内容をよく読み了承のうえ、[OK]をクリックする。

3 再度確認し、[OK]をクリックする。

4 自動的に再起動します。

上記の操作では、TPM で暗号化されたデータを利用できなくなりますが、ハードディスク上には保護されたデータは存在しています。ハードディスクデータ消去ユーティリティを使って、ハードディスクの内容を消去してください。
内蔵ハードディスクに保存されているすべてのデータを消去することができます。
詳しくは、本機の『取扱説明書』をご覧ください。

Security Platformをアンインストールできますか？

- アンインストールできます。
  [スタート] - [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] をクリックし、「Infineon TPM Professional Package」を削除すると、アンインストールできます。アンインストールする前に、Security Platform によって暗号化されたファイルなどをバックアップするか暗号化の解除を行ってください。バックアップや解除をしなかった場合、それらのデータにアクセスできなくなります。また、一部の情報はコンピューター内に残ります。
  詳細については、[スタート] - [すべてのプログラム] - [Infineon Security Platform ツール] - [入門ガイド] をクリックし、[入門ガイド] の [トラブルシューティング] - [FAQ] をご覧ください。

ファイルの暗号化が利用できないのですが？

- ハードディスクドライブが NTFS ボリュームでフォーマットされているか確認してください。次の方法で確認できます。
  [マイコンピュータ] を開いて [ハードディスクドライブ] の [ローカルディスク（C:）] を右クリックし、プロパティを開きます。[ファイルシステム] のところで NTFS と表示されていれば暗号化できます。

誤ってC:\Documents and Settings を暗号化してしまったが、暗号化を解除する方法はありますか？

- 暗号化したユーザーのみ、次の手順で解除できます。（ただし完全に復旧できるものではありません。）
  その他のユーザーでは暗号化を解除できないだけでなく、Windows のログオン途中でハングアップしたり、ファイルのアイコンが正常に表示されないなどの不具合が生じる可能性があります。
  ① 暗号化したユーザーでログオンする（起動に時間がかかることがあります）。
  ログオン途中で 基本ユーザーキーパスワードの入力を求められた場合は入力してください。
  ② [スタート] - [マイコンピュータ]をクリックし、[C:\Documents and Settings] フォルダーを右クリックして[暗号化解除]をクリックする。

③ [属性変更の確認] - [このフォルダ、およびサブフォルダに変更を適用する]をクリックして[OK]をクリックする。
- 「ファイルの属性の適用中にエラーが発生しました」などのメッセージが表示された場合は、[無視] または [すべて無視] をクリックしてください。
- 基本ユーザーキーパスワードの入力を求められた場合は、入力してください。

Windows のシステムファイルやプログラムファイル、他のユーザーが使用するファイルなど、ファイルやフォルダーをむやみに暗号化すると、Windows にログオンできなかったり、アプリケーションソフトが起動しなかったりするなど、正常に動作しないことがあります。
詳しくは、[ファイルおよびフォルダーを暗号化する] をご覧ください。（➔ 17 ページ）